

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-29627

(43) 公開日 平成7年(1995)6月2日

(51) Int.Cl.⁶ 識別記号 庁内整理番号 F I 技術表示箇所

G 0 6 F 3/02

3 1 0 D

3/023

H 0 3 M 11/04

G 0 6 F 3/ 023

3 1 0 G

審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 2 頁)

(21) 出願番号 実願平5-63415

(22) 出願日 平成5年(1993)11月2日

(71) 出願人 000006666

山武ハネウエル株式会社

東京都渋谷区渋谷2丁目12番19号

(72) 考案者 斎藤 正

東京都大田区西六郷四丁目28番1号 山武

ハネウエル株式会社蒲田工場内

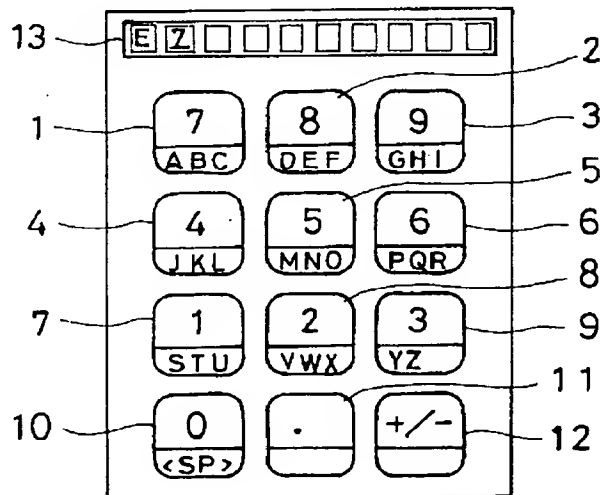
(74) 代理人 弁理士 山川 政樹

(54) 【考案の名称】 文字入力装置

(57) 【要約】

【目的】 入力状態を切り替えるシフトキーがなくても、1つのキーを用いた1回の動作で異なる複数の文字を入力できるようにすることを目的とする。

【構成】 キー1には入力文字として「7」、「A」、「B」、「C」が与えられ、これを押すとまず「7」が表示され、このまま押し続けると「A」、「B」、「C」、「A」、「B」・・・と表示が変化する。ここで、「B」を入力したいときは、「B」が表示されたところでキー1を押すのをやめる。



る。

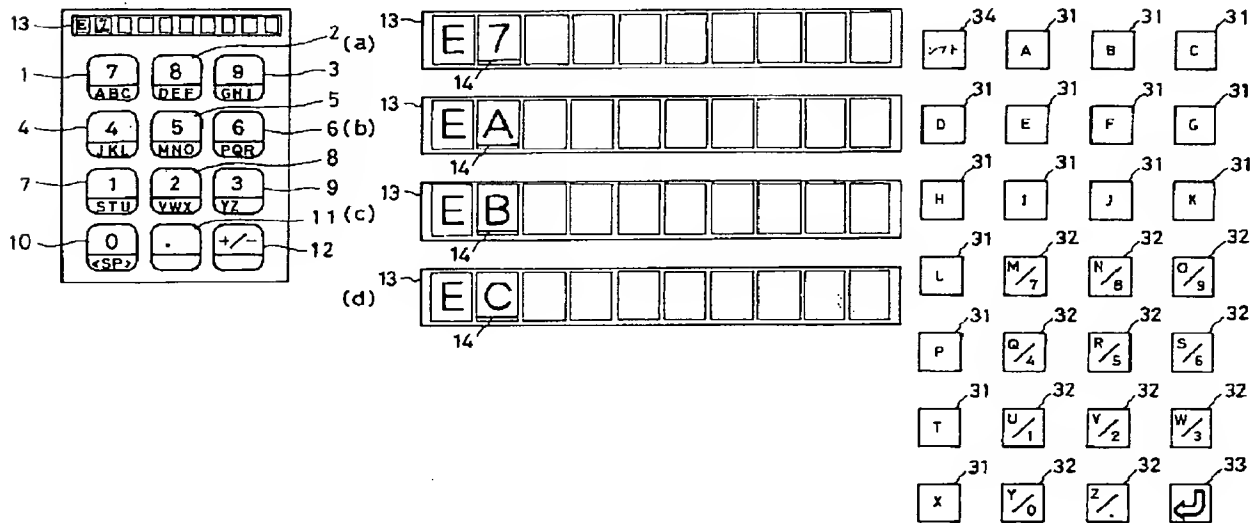
【図3】 アルファベットと数字とを入力するための入力装置の1例のキー配列を示す構成図である。

【符号の説明】

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12 キー

1.3 表示部

【図 3】



【考案の詳細な説明】**【 0 0 0 1 】****【産業上の利用分野】**

この考案は、1つのキーに複数の入力モードを備え、補助キーを使わずにこれらの入力モードを切り替える文字入力装置に関する。

【 0 0 0 2 】**【従来の技術】**

キーボードなどの文字入力装置は、コンピュータ等の電子機器と人間とのインターフェイスとして用いられている。

ここで、携帯用の電子機器では、文字入力のためのキーを多数配置することができないので、1つのキーに2つ以上の入力文字を割り当てている。

図3は、アルファベットと数字とを入力するための入力装置の1例を示すものでありこの入力装置のキー配列を示す構成図である。

【 0 0 0 3 】

同図において、31は記されているアルファベット入力だけを行う専用キー、32は記されているアルファベットおよび数字どちらかを入力する兼用キー、33は専用キー31、兼用キー32を用いて入力した文字列を確定する確定キー、34は兼用キー32の入力状態を切り替えるシフトキーである。

兼用キー32は単独で用いた場合、キーに記されている数字が入力されるが、シフトキー34を押してから兼用キー32を用いると、キーに記されているアルファベットが入力される。

【 0 0 0 4 】**【考案が解決しようとする課題】**

従来は以上のように構成されていたので、1つのキーで数字の他にアルファベットも入力する等の2つ以上の入力を行おうとすると、入力状態を切り替えるためのシフトキーなどの補助キーが必要になるという問題があった。

【 0 0 0 5 】

この考案は、以上のような問題点を解消するためになされたものであり、入力状態を切り替えるシフトキーがなくても、1つのキーを用いた1回の動作で異な

る複数の文字を入力できるようにすることを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

この考案の文字入力装置は、複数の入力文字が割り当てられ、押し続ける時間により前記複数の入力文字を入れ替えて入力する入力キーを有することを特徴とする。

【0007】

【作用】

入力キーを押し続ける時間によって、入力される文字が変更する。

【0008】

【実施例】

以下、この考案の1実施例を図を参照して説明する。

図1は、この考案の1実施例である文字入力装置の構成を示す構成図である。同図において、1は「7」、「A」、「B」、「C」が入力できるキー、2は「8」、「D」、「E」、「F」が入力できるキー、3は「9」、「G」、「H」、「I」が入力できるキー、4は「4」、「J」、「K」、「L」が入力できるキー、5は「5」、「M」、「N」、「O」が入力できるキー、6は「6」、「P」、「Q」、「R」が入力できるキー、7は「1」、「S」、「T」、「U」が入力できるキー、8は「2」、「V」、「W」、「X」が入力できるキー、9は「3」、「Y」、「Z」、「_」が入力できるキー、10は「0」とスペースが入力できるキー、11は「.」が入力できるキー、12は入力した数字の符号を変換するキー、13は入力される文字を表示する表示部である。

【0009】

以下、この実施例のキー入力について説明する。

ここでは、キー1を押すことで入力できる文字について、図2を用いて説明する。

図2は、すでにアルファベット「E」が入力されていて、次の文字を入力しようとしているときの表示部13の状態を示したものである。

表示部13には、各キーを押すことで入力する文字が左より順に表示され、カ

ーソル 1 4 が表示されているところに、現在押しているキーによる入力文字が表示される。

【0010】

まずキー 1 を押すと、図 2 (a) に示すように、初めは、カーソル 1 4 が有る表示位置 2 番目の所に数字の「7」が表示される。

ここで、キー 1 を押し続けると、例えば 1 秒後にカーソル 1 4 がある表示位置の表示が、図 2 (b) に示すように「A」に変わる。

そして、キー 1 をそのまま押し続けると、カーソル 1 4 がある表示位置の表示が、図 2 (c) に示すように「B」に変わり、次いで図 2 (d) に示すように、「C」に変わり、そしてまた押し続けると、図 2 (b) に示すように、表示は「A」に戻る。

キー 1 は、このまま押し続けることにより、入力文字が「A」、「B」、「C」、「A」、「B」・・・と順に変わるものである。

【0011】

そして、キー 1 を押すのをやめた時点で文字が入力されたことになり、この時点で表示されていた文字が入力文字となる。

従って、例えば、キー 1 を押し続けて「B」が表示されたところでキー 1 を押すのをやめると、アルファベット「B」が入力されることになる。

これは、他のキーでも同様であり、例えば、キー 5 はこれを押し続ける時間を変化させることで、「5」、「M」、「N」、「O」を切り替えてそれぞれ入力することができる。

【0012】

なお、この実施例では、「7」など数字の入力是对応するキーを押してすぐはなすという通常の動作で行い、アルファベットの入力は、通常の動作ではなく、対応するキーを押し続けることで入力するものとしており、上述したように押し続けることで繰り返されるのはアルファベットとした。

従って、この実施例において、押し続けることで数字の表示も繰り返されるようにしても良いことは言うまでもない。

【0013】

なお、上記実施例では、1つのキーに1つの数字と3つのアルファベットとを割り当てるようにしていたが、これに限るものではない。

1つのキーに数字と仮名文字を割り当てるようにしても良く、また、1つのキーに5つ以上の文字を割り当てるようにしても良いことは、言うまでもない。

また、上記実施例では、割り当てられた文字がこのキーを押し続けることで表示を繰り返すようにしたが、キーを押し続けて割り当てられた文字が1周表示され、この後も一定時間このキーを押し続けると、このキーを押したことによる入力を無効にするようにしても良い。

【0014】

【考案の効果】

以上示したように、この考案によれば、切り替えキーを用いることなく、1回の操作で1つのキーに割り当てられた入力文字の入力の切り替えができるという効果がある。